



山崎の哲学の
ススメ



統合失調症になっ
た著者の哲学の本

Yamazaki



目次

はじめに	1
1 統合失調症になって	2
2 哲学とは	3
3 中間性理論とは	5
4 個性とは	7
5 人生観について	8
6 主義について	9
7 意志について	11
8 幸福について	13
9 正義とは	15
10 悪意あるものの対処	17
11 哲学と科学	18
12 宗教について	20
13 芸術について	21
14 資本主義について	22
15 人間の存在する空間について	24
16 時間の流れ	25
17 生と死	26
18 戦争と平和	27
おわりに	28

はじめに

哲学とはどういうものだろうか？ そんな疑問を持っている方もいるでしょう。

哲学について自分なりに考えたことを本にしてみました。

本書は読んでいくと定義していない言葉を使っていますが、

後でそれを説明するように書かれています。

また読者に考えて欲しい事も次の行で書かれている場合があるので、

私が考えて出した答えを見る前に考えるのも良いかもしれません。

これを読んで哲学についての興味を持たれば幸いです。

1 統合失調症になって

私が哲学について興味を持ったのは大学の授業を聞いて面白いと思ったのが最初でした。しかしこの時はまだ哲学というものの本質や利用性などを考えていなく、学問（授業）として認識しているだけでした。

しかし統合失調症になり、考えることが増え、正しい考えとは何かを知ろうとすることで哲学的な考えがでてくるようになりました。

統合失調症とは精神的な疾患であり、うつ病よりも重い病気です。

私が最初に普段と違う行動を起こすようになったのは、いろいろな意識が自分に入ってくるような感覚で、恐怖を感じるようなことでした。

その次には赤が正しいという強迫観念が意識を支配し、人は色にわかれていて赤以外は敵だという感覚がありました。

そして仕事場で暴れてしまい入院することになりました。

仕事は好きだったのですがどうも根を詰めすぎて発病してしまったのではないかと今は思っています。

入院してからは相対的（左や右）にあるものでどちらかを選び、世界を作らないといけないという強迫観念があり、雑記帳に書くということをしていました。これがなかなか難しく、世界に相対的なものはたくさんあり、かつどちらを選ぶかというのがうまくいきませんでした。

長い反対は短い ではどちらを選ぶのが正解なのかなど。

人生は長い方がいいが苦しみは短い方がいいなど

今は発病から10年ほど立ちますがまだ薬を飲んでいて仕事にはついていません。働いていたので障害年金で親と暮らしています。

統合失調症になって人生終わったなどと考えずにできなかったことをするというのもいいものです。もし同じように統合失調症になった方にはこれを読んで哲学をするのもいいかもしれません（考える時間が働いている人より増えると思います）

2 哲学とは

「哲学」について私なりに考えたことを以下に述べます。「哲学」の新しい考え方でこの考えが正しいかと聞かれますと、まだ世論として正しいと認識はされてはいません。

「哲学」を考える場合、問題となっている事案に対して「中間性理論」（後で説明します）という考えで考え、それぞれの考えを導き出し、自分の考えがどれに当てはまり、どの「主義」に準ずるかによって答えが決まります。

その答えこそが個人を形成する「哲学」となります。

「哲学」は〇〇の哲学など名前が付くことが多いです。それは「哲学」はその人が考えた答えが

全ての人に受け入れられるものでない可能性があるからなのです

正しいと考える人もいれば間違っていると考える人もいるからなのです

「哲学」を図式化すると以下のようになります。

Input > 処理 > Output

問題定義 > ■ (ブラックボックス) > 答え

「哲学」は考え、答えを出すことですが、必ずしも答えを出さなくても良いのです。

考え中または考えを放棄することもできます。

ブラックボックスとは中身がわからない状態をいいます。

「人間は考える葦である」とパスカルの有名な言葉が示す通り人間は答えが揺れ動きます。

「哲学」の相対にあるものは「コンピュータ」と考えます。

Input > 処理 > Output

問題定義 > □ (ホワイトボックス) > 答え

ホワイトボックスとは中身が見えている状態のことをいいます。

「コンピュータ」は必ず答えを算出し中の処理は作った人は分かっているため必ず同じ答えが算出されます。

3 中間性理論とは

「中間性理論」とは相対となる言葉に、「中心」となる言葉や考えが存在するというものです。

「中心」となる言葉の相対となるものは+に対する言葉と-に対する言葉となり、「中心」となる言葉の「中心」は同じものになると考えられます。

相対となる言葉が必ずしも+と-になるとは限りません。

中道と言う言葉がありますが相対となるものを退けた考え方ではなく、分かつものが何なのかという事を考えます。

たとえば 「左」の相対となる言葉は「右」 ではそれを分かつのは何かというと「中心」というものがあるとあります（言葉には絶対的な意味がない場合もあります）

これは相対となるものをどちらか選ばないといけないという強迫観念があった時、相対となるものを考える途中、一般的には「～で無い」とか「不～」などを付ける場合があり、相対的でない言葉を答えてしまうことがあったため正しい答えが出なかったことがこの理論を導きだしました。

これにより哲学的に考える場合、問題定義には3つのことが考えられ（左、右、中心）中間の存在を考えに付け加えると何が正しいのか見えてきます。

相対とならない言葉もあります。固有名詞やまだ言葉になっていないものなどがあり、今後は新しい言葉が増えていく可能性があります。

中動態と言う言葉がありますが意味が異なるのであえて「中間性理論」と言っています。

哲学では主に言葉の深い意味を知る必要があります。そのため一人一人の考えが全く同じにならず、それが「個性」になっている部分もあります。

4 個性とは

哲学を考える場合どうしても避けて通れないのは「個性とは」何かと言うことです。

私は「個性」こそが哲学のそして人間の最小単位だと考えています。

「個性」はいつ頃できるのでしょうか？ 私は「個性」とは赤ちゃんの時にすでに形成し始めてると考えます。よく泣く子もいれば、よく笑う子もいます。

赤ちゃんがまず考える事はどんなことでしょうか？

私は「好き（肯定）」と「嫌い（否定）」だと考えます。

この「好き」と「嫌い」も中間性理論でいうと中心には何があるのでしょうか。

私は「無関心」というのがあると考えられます。

「個性とは好き嫌い無関心の揺らぎである」と考えます。

では大人は皆赤ちゃんと同じ考えかという事ではなく大人になるにつれ「好き」なものや「嫌い」なもの「無関心」なことが揺れ動くという事です。

大人になるにつれて「人生観」や「主義」ができ、それこそが「個性」だという人もいます。

5 人生観について

では「人生観」とはどのようにしてできるのでしょうか？

私は損得が判り始める頃、すなわち「価値」について考え始める頃に「人生観」が芽生えると考えています。

そして科学的根拠が我々の一般常識として根付き、そこに意味があるか考えるようになると「人生観」がでてくると考えられます。

「価値」の相対となる言葉は「-（マイナス）価値」としておきましょう。
株などでは損失補填と考えるといいかもしれません。

では「価値」と「-価値」を分かつものはなんのでしょうか？
私は「無価値」と考えます。

「価値あるもの（-価値）に遭遇すると人生観は変わるのである」と考えます。

これは今まで「無価値」であったものが一変し「価値」を見出した時、人は人生における優先順位が変化するというものです。

子供においてお金は「人生観」が変わるものだと言えます。
お金って大切ですよね。

6 主義について

「主義」について述べるにはまず「自由とは」何なのかを考える必要があると思います。
「自由」の相対には「束縛」があると考えられます。
では「自由」と「束縛」を分かつものは何でしょうか？
私は「ルール」と考えます。

人間は「自由」かと言われると物理現象に「束縛」されています。
それは物理の法則（ルール）に従っているのです。

始めは生き物、人間としての「ルール」（食べる、寝る、言語など）それから集団としての「ルール」（家族や幼稚園、学校）そして国家の一員としての「ルール」（法）と規模が大きくなっていきます。

「自由とはルールと言う束縛を受けないことである」と考えます。

妄想や思想など考えることに人間は制限がかかっていません。その為いろいろな発想や考え方を自由にできるのです。
しかし生きていくにはルールに従って生きねばいけません。

この「ルール」が個性（好き 嫌い無関心）と結びつくことでその人の「主義」が決まってくると考えられます。

また「自由」についてもう少し掘り下げると「ルール」が「束縛」されている人とされていない人の間には「楽しさ」や「喜び」もう一方では「悲しさ」や「怒り」ができます。
「自由」な人は「喜び」、「ルール」を守っている人は「自由」な人へ「怒り」が起こります。

私は「自由とは怒りを生むのである」と考えます。

「ルール」を守らない場合、ペナルティが与えられます。それは規模が大きくなるにつれて厳しくなり命の危険性がある場合もあります

選挙に足を運ばない人はどうも「ルール」について「無関心」なのでは無いでしょうか？

また人により主義が異なることから論争はよく起こります。

「人と人が論争する原因は主義が異なるためである」と考えます。

同じ主義同士同じ国にいれば論争はほとんど起きないと考えられます。

日本はいろいろな主義が多く社会的な主義は何なのかが分かりづらい部分があります。ですが日本はそういった主義主張を許される国であるため他の国と比べると自由であると言えるでしょう。

7 意志について

人には皆「意志」がある、ではこの「意志」を哲学的に考えていきたい。

「意志」を考えるなら相対にあるものを考えたい。

「意志」が自分が考える未来なら相対には「他の皆の考えた過去」となると考えられる。

これも中間性理論ではどうだろうか？

私は「自分」が「意志」と「他の皆の考えた過去」を分かつものではないだろうかと考えます。

「自分」を形成するのは「他の皆の考えた過去」が入り込んでくるでしょう。

人は皆、「自分」一人だけで世界を構成してはいないのです。

「意志」が弱いなどと言われる方は「自分」の「意志」が「他の皆の考えた過去」に傾いてしまうのではないのでしょうか。これも個性としてどちらに傾くか、強さが違うと考えられます。

「意志とは過去の忘却だ」（ハイデガー）と言うように「意志」は「他の皆の考えた過去」を忘れて「自分」が存在すると言っていると考えられます。

私は「意志とは自分の未来を考えすぎて他の皆の考えを忘れてしまうもの」と考えます。

では「自由意志」についても考えてみたい。

「自由意志」の相対としては「束縛された他の皆の考え」と考えられ、中間性理論でいうと分かつのは「自分のルール」と考えられる。

この課題はかなり難しい「自由とはルールと言う束縛を受けないことである」と考えました。

つまり「自由意志」とは

「未来についてルールを受けずに考えること」と考えられ

今までの経験や知識を忘れ、未来について考えることを意味し、妄想やエゴになる可能性が高く、非常に難しい考えになってしまうと思われます。

私は統合失調症になり1か月入院し会社に戻ったあと、この「自由意志」を実践してしまい（話とは脈絡の無い自分が話さなくてはと思った内容を話してしまい）頭のおかしい人と言うことで解雇処分となりました。しかし後悔はしていません。なぜならそれに見合うだけの現実を知ることができたからです。

「自由意志」は存在するのかわれればそれは存在すると考えます（人間は自発的に「意志」を生み出すことができる、そして行動もできると考えます）[リバタリアン主義]しかし社会において「自由意志」を行うというのはカオスであり頭のおかしい人となるため実践するには勇気がいり、かつペナルティを受ける可能性があります。私は解雇で済みましたが、他人に迷惑をかけることを行ってしまうと警察沙汰になってしまいます。

8 幸福について

この「幸福」というのは難しく「快樂」も「幸福」と考える考えがあります（エピクロスの快樂主義）

中間性理論から「幸福」と「快樂」を分かつものが異なるため私は別々に考えることとします。

「快樂」の相対となる言葉は「苦行」と考えられます。

「快樂」と「苦行」を分かつものは「気持ち」と考えられます。

では「幸福」の相対にあるものは何でしょうか？

私は「不幸」だと考えます。

では「幸福」と「不幸」を分かつものは何でしょうか？

人はそれぞれ生まれた環境や個性があるため「幸福」が異なります。

したがって「幸福」と「不幸」の中間が曖昧になりがちです。

私は「当たり前（常識）」であることが「幸福」と「不幸」を分かつものだと考えます。

この「当たり前」が他人と比べた時、自分の「当たり前」が勝っていると、自分は「幸福」なんだなと考えるでしょう。

国や地域、お金の有無、家庭環境によって「当たり前」は異なります。

人間は「幸福」を追求しようとしています。それは悪い事では無いのですが、哲学的に考えた「幸福」とは何でしょうか？

私は「我々が目指す幸福とは全ての人の当たり前が同じになる世界」ではないだろうかと考えます。

これは「幸福」な人の「当たり前」を「不幸」な人の「当たり前」に合わせるという意味ではなく「不幸」な人の当たり前を「幸福」だと感じるまで一般化することです。

世界にはまだ飢餓や紛争でたくさんの方が困っています。こういった人々が私達の当たり前
の環境に少しずつ近づけるならばそれは「幸福」とよべるのではないのでしょうか。

9 正義とは

「正義」を語ろうとすると主義が異なるため論争が起こるでしょう。
しかし哲学を行うのならこの議題に対して考えなくてはならないでしょう。

「正義」の相対的なものはなんですか？
それは「悪」だと考えられます。

「正義」を生み出すと言うことは同時に「悪」を生み出すことになります。
では「正義」と「悪」を分かつのはいったい何でしょうか？
これはとても難しい問題です。
「正義」も「悪」も人間の心が生み出すからです。
私は「正義」と「悪」の間には「無の心」があるのではないかと考えます。
この「無の心」というのは非常に難しく誰でも簡単に手に入れることはできないと考えられます。
これはお寺などで禅ということをして心は無にするというのに近い考えだからです。

「正義」も「悪」も「無の心」からしてみれば突出（主張）した考えであり、強い信念で形作ったものになります。個性によりその強さはまちまちですが、正しいかどうかの判断が客観的に出来なくなる場合があります。

ではどうやったら「無の心」を手に入れられるのでしょうか？
イメージとしては自分の心を小さく小さくしていきます。心を小さくするというのは心の繋がりをなくし、孤独になっていく感じです。
すると全体の視野がどんどん広がっていき「正義」とか「悪」とかが小さい存在になります、そうした時にどんな事でも許せる自分がいるようになるでしょう。

「無の心を手にした時、人は正義と悪の判断はほとんど無くなるものである」と考えます。

これは「正義」も「悪」もいない世界が哲学的に正しいのではないかとの考えであり、平和である日本に住んでいる筆者の考えであります。

ただ「無の心」と言うのは万能ではなく同時に無関心、無気力、無感情といったものも
でてくるため注意が必要と思われます。この心を求めて無気力になり自殺した哲学者が
歴史上に多いのではないのでしょうか。

10 悪意あるものの対処

世の中には「悪意」あるものがたくさんあります。それはエゴから生まれると考えます。正義のない世界をつくるにはこの「悪意」あるものへの対処が必要になります。

「悪意」あるものが自分または国、世界を侵食するのであれば自衛しなくてははいけません。力なき思想は無力なのです。(逃げると言うのも一つの手ではあります)

ではどうやって自衛すればよいのでしょうか？ 力には力を、武力には武力、知略には知略で対抗するしかありません。

相手を無力化するか膠着状態に持ち込めることが出来れば、あとは交渉に持ちかけることができます。

しかし相手を無力化するには相手より強い力が必要です。それは数であったり一個人の能力であったりお金であったりします。そう言ったものがなければ「悪意」に屈服してしまうでしょう。

自衛をしたくてもできない出来ない場合があるでしょう。もしもそこに助けをもとめ、力を貸してくれるものがあるとしたらそれは英雄なのかもしれません。

「悪意」の相対となる言葉は「善意」と考えます。

「悪意」と「善意」を分かつものは「無の心」と考えられます。

正義と悪を分かつものと同じものだと考えます。

なぜ考えが違うのかといいますと先に悪や「悪意」があるか、後にあるかの違いです。

自身の正義を考える場合、後に悪ができます。他人からの「悪意」の場合は先に「悪意」があるため考えが異なるということです。

私は「無の心と言っているが自分に降りかかる火の粉は結局払おうとするのである」

11 哲学と科学

「哲学」の相対となるのは「科学」だという人もいるでしょう。

実際自分も「哲学」の相対には「コンピュータ」があると考えています。

「コンピュータ」は「科学」の集大成でありこれを利用している人はたくさんいます。

「科学」は「哲学」から生まれていますが、近代哲学では科学的根拠がないものは間違っているという認識になっています。

私達が思考する時、科学的知識を優先して物事を考えます。

そのため「哲学」する（考える）ということを置き去りにしている傾向があります。

書物なども歴史上の哲学者の考えや成功者の「哲学」などがあふれ、自ら「哲学」をしようとする人が減っているように感じます。

問題定義になるような事はインターネットで調べれば大体答えがでています。

インターネットの答えが全て正解かと言うとそうではなく大多数の人の考え、世論として掲載されている可能性が高いです。

では「哲学」より「科学」の方が優れているのかと言うとそうではなく、科学者の根底には「哲学」がありそれによって「科学」も進歩しているのです。

では「科学」の相対となるものはなんのでしょうか？

ここで「哲学」と言いたいところですが私が考える相対は「自然」と考えます。

「自然」は人知の及ばないことを言っていると考えます。

「哲学」「宗教」「芸術」なども「科学」とはカテゴリーが異なるため、相対としては考えられますが「自然」は「神」が作ったものと言う考えがあるため「宗教」的な意味も含め「自然」を相対になると考えました。

では「科学」と「自然」を分かつものはなんのでしょうか？

私は「法則」と考えます。

「自然科学」（物理学、数学、化学など）というものがありますが、これは今まで「自然」の現象となっていたものが「法則」により定義づけられ科学的根拠となり一般常識になっ

たものです

「自然科学」の発展により「自然」はどんどん解明され、それが一般常識となり「哲学」の考え方も変わって行くと考えます。

12 宗教について

「宗教」について考えるにはまず、世界三大宗教を考えねばなりません。

世界三大宗教とは、キリスト教、仏教、イスラム教です。

私は宗教家ではないので大まかな事しか分かりません。

「宗教」には派閥が多数存在し、キリスト教でもプロテスタントとカトリックが存在します。

「宗教」には教えがあり、人間とはこう生きるべきというのが記されています。

哲学が自分で考えよう生きるというのと違い、教えに従って生きるというものが多いと思います。

「宗教」の醍醐味としては世界を作ったのは「神」であるところだと思います。

科学が発展する以前からあり、信仰している人は世界に40億人以上います。

「宗教」の相対は何でしょうか？

私は「自然科学」だと考えます。

では「宗教」と「自然科学」を分かつものはなんのでしょうか？

私は「神」ではないかと考えます。

「自然科学も神を証明しなければ宗教を否定できない」と考えます。

私の家庭は祖父母が真言宗、母がキリスト教のカトリック、父が無宗教で、小学生の時に教会のミサに毎週参加をしていました。日曜学校というのがありそこでキリスト教について少し学んでいました。現在は教会に足を運ぶということはしていません。

13 芸術について

「芸術作品」には人を感動させようとの思いが詰まっています。

その方法はいろいろあり、近年ではコンピュータを使用して作品をつくるなどがあります。

「芸術作品」の価値は、数が少なかったり手掛けた時間によって高くなったりします。

「芸術」は哲学と同じく抽象的な学問とされていますが、「芸術作品」を作る人は感覚的に哲学を行っていると言えます。

人を殺める兵器であっても、素晴らしいと感じるなら「芸術」といえるかもしれません。私は認めたくはありませんが

また、日本では物を作る時、「魂」を込めるといいます。

では「芸術」の相対となるものは何でしょうか？

くだらないと感じ、人にマイナスの感動を与え、「魂」を奪うもの。

適当な言葉が出てきません。ウィルスのようなものでしょうか、とても難しいです。

今は「-（マイナス）芸術」としておきましょう。

「芸術」と「-芸術」を分かつものは何でしょうか？

私は「魂」と考えます。

「心を込めた作品が素晴らしいと感じるなら、それがデータやレプリカでもそれは芸術である」と考えます。

哲学で「芸術」を表わそうとするのは無理なのかもしれません。

14 資本主義について

現在、政治哲学において「資本主義」は最優先にされています。

ロシアも中国も「資本主義」に移行し政府の体制も変化してきています。

「資本主義」の相対となる主義は何でしょうか？

それは「共産主義」だと考えられます（マイナスの意味としてではなく）

では「資本主義」と「共産主義」を分かつのは何でしょうか？

私は「企業」と考えます。

「資本主義」は競争することで物の価格が下がり民衆には喜ばれる。

「企業」のトップは利益の多くを取得することができ、起業の意欲も上がりいいことづくしだ、

ただ「資本主義」は市場の独占を目指すのに独占禁止法というのがあり独占できないようにしています。これは独占をすると価格を好きなように操作できるため価格が上がり民衆に負荷を与えるためです

「資本主義」の考えは「最高のフルートは一番上手な演奏者に与えるべき」（アリストテレス）の考えに則っています。

私の考えはこうです。

「最高のフルートはみんなで吹けばいい」

これは昔は最高のフルートは1つしか出来なかったかもしれませんが、今は科学の進歩で最高のフルートは大量に生産できるでしょう。そうなった場合一番上手な演奏者でなくても良いと考えます。

「資本主義」も同じように、「企業」が成熟した（ほぼ独占した）場合、国がその企業を買い取り、政府が運営していけば良いと考えます（共産主義の考え方）

政府が買い取れないぐらい大きくなった場合はロックフェラーの時のように子会社化してまた競争を行うようにするのもいいと思います。

企業が成熟していくのはかなり先の未来になります。それまでは「資本主義」こそ最高なのです。

15 人間の存在する空間について

私達は今生きている空間についてあまり考えません。しかし私は世界を構成するものの抽出ということを考えてきたことで今ある空間についてどのようになっているか考えました。

既成概念で言うと今ある人間の存在している空間は三次元で人間は時間の中を動いていると言えるでしょう。私はこの時間ということに着目しました。私が入院する前に感じたことなのですが、世界が灰色になり時間が止まる感覚がありました。時間の停止、それは

世界の終わりを告げることと同意だと感じました。その時私は人間の時間をもっと伸ばせるように物語を作れる人になっておけば良かったのか、映画監督のように作品を作れるようになっていれば良かったのかなどという考えで頭がいっぱいになりました。もちろん今私達は時間が止まった世界にはいません、ですが私としては時間が止まっていない、別の三次元に行けた感覚がありました。そんな考えがありこの三次元と時間の関係を自分なりに考えてみました。現代哲学は科学的根拠を元に考えるためまずは時間について考えてみました。

時間を作るにはどうしたらいいのでしょうか、科学的に考えるなら A 地点から B 地点までの距離をある一定の速さで進むと時間がかかる。これは三次元だから言えることで次元ではどうでしょうか？ ここからは [仮説] (形而上学的) になってしまうのですが、連続した次元では時間が発生するというものです。次元は点で連続した点が時間を生み出すというものです。次元で考えるとアニメーションができる原理と同じで、連続した線が動きを作り、時間を生み出すということです。では三次元はどうでしょうか？

これも同じように連続した立体により時間が生み出されます。アインシュタインの相対性理論では大きなものは時間がゆっくりと進み、小さいものは時間が早く進むと言うものでこれを連続した次元であるとした場合、大きな次元は作るのに時間がかかり、小さい次元は早く作られるため時間が早く進むと考えられます。これを証明するには上位の次元、つまり次元から確認することが必要なため [仮説] となります。

ここで考えられる次元を作っているものは何かというと、私は「神」が作っていると考えます。

宗教で考えられるどの「神」かと言われると、それは私が信じる「神」となります。

16 時間の流れ

時間は「流れる」といいます。私達は生きている時この時間をどのように捉えるでしょうか？

水も「流れる」といって液体は流動的に動きます。水が「流れる」ときは A 地点から B 地点に移動した時に水が「流れる」といいます。

では「流れる」という言葉を哲学的に考えたいと思います。

「流れる」の相対となる言葉は何でしょうか？

この答は後で説明したいと思います。

中間性理論では分かつものは「止まる」が該当すると考えられます。

まずは水で説明していきたいと思います。さきほど「流れる」は2つの地点を移動した時としています。それには A と B に高低差があり上から下へ流れる場合と A から推進力で B に「流れる」場合があります。相対としてのものは逆の推進力や逆への移動が発生した状態、水ならばせき止めて水位が上がっていくような「とどまる」としておきましょう。

これを時間で当てはめると時間は「止まる」場合と「とどまる」場合がある可能性があります。

時間の流れを「止めて」おくと「とどまる」状態となり三次元があふれて逆に流れる可能性があります。

時間の相対は空間とされていますが時間が連続した次元であれば相対としては連続しない次元が相対になると考えられます。

17 生と死

人間どうしても避けて通れないものは「死」です。人間も生き物であるため必ず「死」が訪れます

これも哲学的に考えてみましょう。

「死」の相対は「生」（誕生）と考えます。

人間は精子と卵子が受精して誕生します。科学では無機物から生命を誕生させることはまだできていません。そのため「神」が作ったという考え方もあります。

では「生」と「死」を分かつのは何でしょうか？

私は「魂」と考えます。

生きている時は「魂」があり「死」ぬと「魂」が無くなるという考えです。

「生とは魂の赴くままに行動し、時に死を考えるものだ」と考えます。

これは一度しかない人生、自分の信じる生き方をし、そしてどう死ぬか考えるべきということを行っています。

「魂」は四次元のインターフェースと考え上位次元に繋がっていると考えています。

そのため三次元で動くことができると考えています。

これも宗教的な「魂」と考えが似ており、どの宗教に影響を受けているかというキリスト教の父の元に戻るという考え方でしょうか。

ただ自分の信じる「神」というのは純粋な生命（赤ちゃん）であり、それが四次元にいるのだと考えています。

18 戦争と平和

2022年 ウクライナとロシアは戦争に突入した。他の国でも紛争など起こっているが

大国での戦争は第三次世界大戦の火種になりかねない。

戦争の相対にあるのはなんだろうか？ これは表題にもなっている平和だろう。

これも中間性理論で考えていきたい。

戦争を起こすのも平和を維持するのも民衆の総意（多数決）またはリーダーの意志（一人の意志）

だろう

そう考えると二つの間には「～の意志」が中心にあると考えられる。

ただこの「～の意志」は自分または他人の「意志」となる

よって「戦争や平和とは他人の意志または一人の意志によって起こるまたは維持される」と考えられる。

当たり前じゃないかと思われるがここで考えるのは「意志」で戦争していない人のことを

忘れてしまっているという考えです。

戦争になる原因としては、リーダーの意志が戦争に考えがいくことでしょう。多数決で戦争を

しようとする国や団体は少ないと思います。

戦争は主に領土拡大や地域の掌握のために行われます。

では平和はどうやって維持していくのでしょうか？

これは多数決で平和を維持しようとする国が多いでしょう。

歴史上でも一人の意志のせい戦争が行ったことのなんと多いことか

おわりに

哲学についていろいろ考えましたが、その利用性については人それぞれだと思います。違うと考えたことがより一層強くなったりこういう考えもあるのかと感心したりすると思います。人はそれぞれ個性があるので社会の歯車の一部になって自分を見失うことのはかなさを考えることもあるでしょう。そういった時、哲学が自分の考えがどうあるべきか、考える時間があっても良いと思います。

山崎の哲学のススメ

著 Yamazaki

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
